

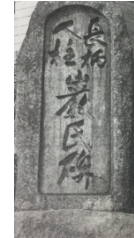
## 長柄の人柱

自宅近くに標題に関わるお寺と碑があることを知り、さっそく訪ねてみた。大願寺は自分で撮ったが、碑の方は柵で囲われており、ここで紹介する淀川市役所『淀川流域の伝承』2004年による。



長柄の人柱は大阪を代表する最も有名な伝承です。推古天皇 21 年(613)

頃、垂水(現・吹田市)に巖氏(異説・蘇我太夫)という長者が住んでいました。



何一つ不自由のない豊かな暮らしでしたが高齢になり、「私はありがたいことに安楽な人生を過ごしてきた。これもみな社会の恩、人々の情けを受けたからである。もう年をとり思い残すことはない。どうせ死ぬなら世間のお役に立って死にたい。聞くところによると、長柄の橋は何度架けても流失してしまい、村人たちは難儀しているようだ。ひとつ私が人柱になって橋を完成させ、社会の恩に報いることにしよう」といだし、息子の仲次や娘の照日の止めるのも聞かず、白衣を着用して石櫃に入り、長柄橋の橋杭の下に生きてまま埋められました。それからはふしぎなことに、どんな高潮が来ても、洪水になっても、びくともしない長柄橋ができたといわれます。

10 年後、推古天皇は公共福祉の犠牲になった巖氏を憐んで、冥福を祈るため長柄橋の近くに「橋本寺」を建立しますが、これが大願寺(淀川区東三国 1 丁目)の起こりと伝えます。山門に推古天皇勅願寺と記されているのは、このようなゆかりがあるからで、山号の「孤雲山仏性院」も天皇から下賜されたものです。寺の北東の飛地に、立派な「長柄人柱 巖氏碑」と刻まれた石碑が建っています。昭和 11 年(1936)に小西久兵衛さんが寄進されたものですが、ここが巖氏が人柱になった橋杭の跡だと伝えます。川筋が変わり古池になりますが、天正元年(1573)頃、毎晩池中から霊光が発するので調べたところ、石櫃に入った不動尊が出てきます。村人たちは人柱になるとき巖氏が持参した仏像だろうと相談し、大願寺に奉納、古池を「光明ヶ池」と呼びますが、今は埋め立てられて建碑地になったわけです。

現在の大願寺は、宝永 6 年(1709)法華宗の信徒で大坂の豪商、天王寺屋弥右衛門の浄財で再建されており、境内に弥右衛門の墓もあります。…… 実在の長柄橋がどこにあったのかは、全くわかりません。

現在の長柄橋(東淀川区柴島 2 丁目一北区天神橋 8 丁目)は、明治 6 年(1873)9 月、初めて架けられ、幅 2 間・長さ 93 間余の木橋でした。2 度改築されたあと、昭和 56 年(1981)市内で屈指の大橋が完成します。南詰に明倫観音が祀られていますが、同 20 年 6 月 7 日、B29 の 70 機編隊の空襲を受けたとき、長柄橋下に避難した 3 百余の住民たちが爆撃され、死亡した霊を供養するために建立されたものです。前を通るたびに、戦争はこりごりだとの思いが強まります。

(2018 年 1 月 2 日)